

日時：2010年2月26日(金)15:00~18:10

場所：東京富士大学本館4階第3会議室

## 日本パーソナリティ心理学会第95回常任理事会議事録

出席：浮谷秀一理事長、堀毛一也副理事長、二宮克美、小塩真司、向田久美子、藤田主一、  
中村真、山崎晴美、安藤寿康(大会主催校)

委任：なし

欠席：渡邊芳之、松田英子

事務局長：加藤司

### 報告事項

#### 各種委員会報告

#### 1 機関誌編集委員会(代理：理事長)

##### (1) 編集委員会の開催状況

第17期・18期合同の拡大編集委員会を平成21年11月29日に川崎医療福祉大学で開催した。

##### (2) 「パーソナリティ研究」の発行状況

##### 1) 「パーソナリティ研究」第18巻2号

1月末までに会員に送付された。原著2本，資料6本，ショートレポート3本

##### 2) 「パーソナリティ研究」第18巻3号

初校の著者校正，編集委員長による校正が終了し、国際文献印刷に返送した。年度内3月中の発行は問題ないと思われる。原著0本，資料2本，展望3本，ショートレポート5本である。

掲載番号	審査番号	種別	題目	筆頭者	受稿	受理
18-3-1	A-204E	資料	パーソナリティが中学生の抑うつの変化に及ぼす影響	田中 麻未	2009.2.12	2009.11.4
18-3-2	B-49E	資料	自己開示の深さを測定可能な自己開示尺度の開発	丹羽空	2009.2.12	2009.12.16
18-3-3	R-05E	展望	内面の被知覚の意識に関する研究の展望	太幡 直也	2009.2.27	2009.11.17
18-3-4	R-03E	展望	相互作用としての機能的アサーション	三田村仰	2008.5.12	2009.12.24
18-3-5	依頼論文	展望	The Problem of Meaning in Personality Psychology from the Standpoints of Dispositional Traits, Characteristic Adaptations, and Life Stories	Dan P. McAdams	2009.12.24	2009.12.24
18-3-6	S-139E	ショートレポート	青年前期用自己価値の随伴性尺度の作成	大谷和夫	2008.10.10	2009.9.17
18-3-7	S-150E	ショートレポート	向社会的行動と過剰適応の組み合わせにおける不合理な信念および精神的健康度の違い	金築智美	2009.3.5	2009.10.8
18-3-8	S-151E	ショートレポート	プライバシー意識がプライバシーを感じる内容、理由に与える影響	太幡 直也	2009.3.16	2009.11.4
18-3-9	S-136E	ショートレポート	潜在・顕在的なロマンティック幻想と結婚満足感	麻生奈央子	2008.9.12	2009.11.17
18-3-10	S-159E	ショートレポート	抑うつ的反すうを促す反すうする利益に関する信念の内容	長谷川 晃	2009.6.23	2009.12.21

(3)「パーソナリティ研究」の編集状況

1)「パーソナリティ研究」第19巻1号

採択論文は原著3本、資料0本、展望1本、ショートレポート5本の計9本、現在採択に向けて投票中の論文が3本ある。3月中旬をめどに掲載論文を決定する。刊行予定は6月中旬・下旬である(17巻1号は10月発行、18巻1号は7月発行だった)。

(4)投稿状況

昨年3月から2月24日までの投稿状況は以下の通りである。

年	月	原著	資料	ショートレポート	展望他	合計
2009	3	2	1	1	0	4
	4	4	1	4	0	9
	5	2	0	2	0	4
	6	2	1	2	0	5
	7	5	1	3	0	9
	8	2	0	0	0	2
	9	3	2	1	0	6
	10	0	0	1	0	1
	11	3	2	2	0	7
	12	3	0	3	0	6
2010	1	1	1	3	0	5
	2	2	1	0	0	3

(5)その他

1) 科研費の表示について

平成21年度に受けている科研費「研究成果公開促進費」についての表示を18巻1号に掲載することができなかった。18巻2号には表示を掲載して発行した。18巻3号にも同様の表示を掲載する。

2) 英文校閲について

英文校閲を外部業者に依頼している。18巻1号、2号については「(株)テキスト」に依頼している。校閲費は1号あたり40,000円程度で以前より3割ほど増加している。

3) 論文種別の見直しについて

原著と資料との区別が理解しにくいこと、原著から資料への種別変更が目立つことなどから、パーソナリティ研究の論文種別を再検討することを拡大編集委員会で提案し、賛同を得た。今後編集委員会内部で検討を進める。

2 経常的研究交流委員会(二宮担当常任理事)

放送大学東京多摩学習センターと共催で、以下のような公開企画を開催する。

題目:「子どものパーソナリティと教育」

講演者：高見のっぽ氏（俳優・作家・歌手）

シンポジスト：住田正樹氏（放送大学）、安藤寿康（慶應義塾大学）、向田久美子（駒沢女子短期大学）

司会：森津太子氏（放送大学）

日時：2010年3月21日（日） 14:00～17:00

場所：放送大学東京多摩学習センター 4F 講義室

### 3 広報委員会（小塩担当常任理事）

委員長：小塩担当常任理事

副委員長：家島明彦（島根大学）、山田幸恵（岩手県立大学）

委員：桑村幸恵（愛知学院大学）、大和田智文（関西福祉大学）、毛新華（大阪大学）、佐藤恵美（東京富士大学）、奥田雄一郎（前橋国際大学）、木村文香（江戸川大学）、水野邦夫（帝塚山大学）、伊藤君男（東海学園大学）、阿部美帆（筑波大学）承認された。

### 4 国際交流委員会（向田担当常任理事）

#### （1）委員会構成

委員長：向田担当常任理事

サトウタツヤ（立命館大学）、高木邦子（聖隷クリストファー大学）、高橋雄介（日本学術振興会特別研究員）

#### （2）McAdams 氏への論文依頼

「パーソナリティ研究」第18巻第3号に掲載予定。

The Problem of Meaning in Personality Psychology from the Standpoints of Dispositional Traits, Characteristic Adaptations, and Life Stories

#### （3）大会企画

Roberts セミナー企画

タイトル：Construction and reconstruction: The reciprocal relation between conscientiousness and work, marriage, and health across the life course

#### （4）シンポジウム企画

Michael Bamberg（Clark University）

質的心理学会と共同開催で、6月末～7月初旬のいずれかにおいて、東京でシンポジウムを開催予定している。詳細は現在国際交流委員会で検討中である。

### 5 学会活性化委員会（藤田担当常任理事）

(1) 委員会構成

委員長：藤田担当常任理事

堀毛一也（岩手大学） 荒川歩（名古屋大学） 沢宮容子（立正大学） 慶應義塾大学（大会主催校）より1名承認された。

(2) 大会発表賞

今年度（川崎医療福祉大学で開催）の大会発表賞の受賞者について、現委員会より前委員会に報告を求め、その結果を常任理事会 ML で審議することになった。

6 各種電子化検討小委員会（中村担当常任理事）

(1) 委員会構成

委員長：中村担当常任理事

堀毛一也（岩手大学） 永房典之（東京文化短期大学） 松岡陽子（大同工業大学） 小島弥生（埼玉学園大学）承認された。

日本心理学諸学会連合

1 日本心理学諸学会連合について（理事長）

(1) 国家資格について

国家資格について、一資格一法案の方針で決定し、その名称について議論された。また、「教育・発達」心理資格連絡協議会より、三団体での協議に加えてほしいとの要望があったが、否決され、今後も、日本心理学諸学会連合を含めた3団体で、交渉を進めることになった。

(2) 役員選挙について

日本心理学会の選挙日と近いため、選挙権と被選挙権について話し合いがなされた。

2 心理学検定について（代理：藤田常任理事）

8月22日（日）に第3回心理学検定を実施する。今年度は10会場で実施する。京都地区、広島地区が新たに加わった。10会場：北星学園大学（札幌市） 東北福祉大学（ステーションキャンパス） 東京大学（本郷キャンパス） 金沢大学（角間キャンパス） 中京大学（名古屋キャンパス） 立命館大学（衣笠キャンパス） 関西大学（千里山キャンパス） 川崎医療福祉大学（倉敷市） 広島修道大学（広島市） 九州大学（箱崎地区）

第19回大会準備状況について（安藤大会準備委員長）

## 1 日時・場所

平成 22 年 10 月 10 日、11 日、慶應義塾大学三田キャンパス

## 2 大会企画

- (1) Roberts による招待講演および若手研究者との討論会
- (2) 渡辺茂氏 (慶應義塾大学)
- (3) 大野裕氏 (慶應義塾大学) 臨床心理士資格ポイント対象を考えている

## 3 学会ホームページ

現在、公開準備中

## 4 Web による登録システム

国際文献による学会 web システムの導入を検討中である。予算は 315,000 円であり、毎年度、このシステムを使用することができるため、学会から支出してほしいとの申し出があった。ただし、システム運用等が毎年度 121,000 円必要になる。

準備委員長より、承認されたため、システム導入について、常任理事会にもかかわってほしいとの提案があった。各種電子化検討小委員会の中村委員長が選出された。

### 事務局報告 (加藤事務局長)

## 1 会勢報告

賛助会員 1 名、名誉会員 6 名、一般会員 552 名、院正会員 262 名、学生会員 4 名、計 825 名 (2 月 20 日現在)

## 2 会費未納者

2008 年度および 2009 年度会費未納者 (2010 年 3 月末日までに振り込みが確認されなければ、会費未納に付き退会として提案された)。原則として、承認されることになった。

### 審議事項

#### 機関誌の紙媒体廃止に関するアンケートに関する件 (中村担当常任理事)

#### 「性格心理学ハンドブック」の改訂に関する件 (理事長)

福村出版より、「性格心理学ハンドブック」の改訂が提案された。「性格心理学ハンドブック」ワーキンググループを設立し、この委員会で検討することになった。堀毛副理事長を中心に、浮谷理事長、二宮常任理事、佐藤達哉先生、越川房子先生などによるワーキンググループを設置することにした。

第 18 回理事会・第 94 回常任理事会議事録承認に関する件

承認された。

仮入会の有効期限に関する件（理事長）

\* 仮入会期間の有効期間を決定するかどうか、決定するならば、どのくらいの期間にするか。有効期間を 1 ヶ月とすることで決定した。新入会員の説明には、文言を加える。

新入会員に関する件

一般会員：具志堅伸隆氏、矢澤美香子氏

院生会員：上田光世氏、正木陽子氏、蔵永瞳氏、三宅華奈氏

学生会員：角幸頼氏

以上、7 名が承認された。

ただし、1 名は、最終学歴が高等学校卒業であり、学会会則と照らし合わせ、承認されなかった。

その他

なし。

次回、常任理事会は、4 月あるいは 5 月を予定している。